

『産科医療功労者厚生労働大臣表彰』の記事

橋本 友幸 病院長

道南初となる未熟児センターを昭和四十八年に開設し、平成二十年には総合周産期母子医療センターの指定を受けるなど、長年にわたる地域の



産科医療への貢献が高く評価された。

「受け入れを絶対に断らない」をモットーに、ハイリスクな妊婦や分娩、低出生体重児などの

産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受けた函館中央病院病院長

橋本 友幸氏



ケアを二十四時間三百六十五日行ってきた。「産科、小児科の医師、スタッフの努力はもちろんだが、それ以外の職員

のマンパワーがあつてこそ。病院を挙げての受賞と感謝したい」。院長に就任以降、「横割り」のチーム医療作りを推進してきた。一つの疾患に対し、内科、外科の垣根を越え、効率的で

安全に産める環境整備を使命に

風通しのよい医療提供が可能になる。総合周産期母子医療センターはまさにその典型となった。

横割り体制は「仕事のフィールドや視野を広げる」と、人材育成効果も期待する。山根繁前院長の座右の銘「常識への挑戦」を継承し、「常識に捉われず、常になぜを問うことが前進への一歩」と若いスタッフの育成にも熱意を注ぐ。

「少子化は産みたくないのではなく、産めない社会環境が根底にあると思う。そうした状況下、いつでも安全に産める環境を最大限に整えておくことが医療者の役割」。